

松山遺跡 第11地点

遺跡名	松山遺跡
よみがな	まつやまいせき
調査地点	第11地点
主な時代	弥生時代後期（約1750年前）
調査地	富士見市大字水子1231-1、1231-2、1232-1、1232-2、1246-1、1246-3
調査面積	2433.2 m ²
調査期間	令和3年6月28日～7月14日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期竪穴住居跡1軒、平安時代土坑1基</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生土器片、須恵器片</p> <p>【概要】</p> <p>松山遺跡はみずほ台小学校から東に約400mの位置にあり、水子貝塚や打越遺跡といった、縄文時代前期の貝塚をもつ遺跡に挟まれるように立地しています。これまでの調査で、貝層をもった縄文時代の住居跡や、弥生時代後期、平安時代の住居跡が発見されている、複合遺跡です。</p> <p>今回の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡が1軒、平安時代の土坑1基が確認できました。</p> <p>弥生時代の竪穴住居跡は、斜面地に建てられていたため、谷側では住居の壁は確認できませんでしたが、当時の地表面から住居の床面まで、70cm以上掘り下げている、しっかりとした作りの竪穴住居跡です。住居跡の中央やや奥には、床面に粘土を貼り付けて煮炊きの場とした「火皿式炉」を設けていました。</p>



テントで日陰をつくって作業をしています



弥生時代の竪穴住居跡完掘状況



住居跡床面で検出された土器片や炭化材



床面に粘土を貼り付けた「火皿式炉」